

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

10 March 2010

IN THE HEADLINES



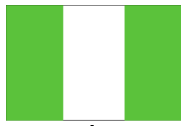
中国

2月の輸出は前年同期比で45.7%増加(金額ベース)し、これは予測以上であり12月以来のトレンドを確定するもの。輸入は44.7%増であり、これは予測以上であるが12月~1月の伸びよりも緩やかである。最近数ヶ月の輸入の伸びには、グローバルな需要の改善に伴って、加工・再輸出用商品へのシフトが伴っている。貿易黒字も2月は縮小したが、これは大まかに言って季節要因によると思われる。中央銀行総裁の最近のコメントは為替政策についての推測を更新した。貿易の見込みがひ弱である事もあって、その為替政策のいかなる変更も、それがいつ起こるにせよ、用心深いものになるだろう。



マレーシア

実質 GDP は3四半期連続して縮小した後、2009年第4四半期には前年比4.5%増加した。この改善は広い要因による。そうではあるが、2009年通年のGDPは1.7%減少した。2009年後半のデフレの時期の後、2010年1月には消費者物価は再び上昇し、前年同期比1.3%の上昇であった。先週中央銀行は慎重な金融引き締めサイクルに切り替え、公定歩合を25bps上げて2.25%とした。2010年の経済成長は堅調に4%伸びると見込んでおり、強いベース効果のゆえに2010年前半の伸びが後半を上回るだろう。また、経済状況の改善に対応するため、更なるゆっくりにした金利の引き上げがあると見込まれる。



ナイジェリア

中核都市であるジャスでの人種暴動は更なる不安定の懸念を高めている----北部はイスラム教徒で南部はキリスト教徒である----中央統治の不安定なこの時期において。中央政府は、三ヶ月の医学的治療の後公的な場に姿を現していない病身のウマル・ヤルアドゥア大統領を支持する人々とグッドラック・ジョナン大統領代理を支持する人々に分かれているようである。権力真空のリスクが存在し、そのために政策の実行(特に石油とガスのセクターでの)と人種分裂の解決が制約される恐れがある。2011年の選挙が近づくにつれて政治的陰謀の強まりが予想される。



ブルガリア

大多数の国々とは対照的に、2009年第4四半期は実質 GDP の減少は第3四半期の5.4%から6.2%(見込)へ引き続き悪化した。個人消費の成長(-7.5%)、政府支出の成長(-20%)及び投資の成長(-29%)は特に弱かったが、輸出の成長(-0.3%)は改善した。これまでのところ、リセッションは固定為替相場制を取っている他の東欧諸国ほど極端ではない。しかし、金銭面での打算----これは委員会(board)の要求である----は、停滞する信用成長と結びついて、早期の回復を阻むかもしれない。2010年の経済成長は、2009年の-5.1%の後、ごくわずかと見込まれる。

ALSO IMPORTANT...



ホンデュラス

ロボ大統領が11月の選挙で選ばれて以来国際関係は正常化しつつある。米国は新しい政府を直ちに承認し、より最近になって中断していた援助を再開すると発表した。世界銀行は先月融資を再開し、IMFは昨年実施されたFX準備金の一般増額金の一部としてホンデュラスへ行く1億6千万米ドルの凍結を解除した。FX準備金は危機の間に下がったが、その下がり方は急激ではなく、国際財政の全面的再開によって、十分なはずである。しかし、かなりの数の国が新政府を未だ承認していないので、ホンデュラスはOASからは留保されたままである。



ハンガリー

2009年第4四半期の実質 GDP の収縮は第3四半期の7.1%から前年同期比4%へと緩和した。しかし、GDP はなお前年四半期比では0.4%収縮し、これで7四半期連続の収縮であり、2009年通年のGDPは6.3%減少した。2010年1月にはインフレ率は、より高い税金と管理された物価に拍車をかけられて、前年同期比で6.4%加速した。しかるに中央銀行は、2010年後半にインフレを大きく下げるべく、2月に公定歩合を25bps下げて5.75%とし、HUF/EURの為替レートは2009年半ば以降かなり安定している。2月にIMFスタッフミッションはかなりポジティブな評価に達したので、IMFの融資は継続すると見込まれ、2010年のGDPの収縮は小さいものとなるだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



サウジアラビア

アブドラ・ビン・アブデルアジズ・アル・サウド国王はしっかりと権力を握っており、一時的な改革アジェンダは認められるが、政治的・社会的改革はゆっくりとしか進まないだろう。地域的安定性は、国境を接するイラクや近隣のイランの不確かさのために、下降方向のリスクがある。経済は炭化水素の市場に高度に依存する状態であるが、2003~2008年の強力な対外収支が最近のグローバルリセッションに対するクッションになった。大きな当座勘定の余剰の継続が見込まれ、ネット外国資産(net foreign assets)を押し上げる(4000億米ドル以上と見込まれる)。GDPは2009年は1%収縮したが、2010年と2011年は3~3.5%拡大すると見込まれる。



コンゴ

アフリカで三番目の大きさのこの国では、東部で暴力の周期的な爆発があり、人口の大きい部分は生地から追い出されたり人種的暴力にさらされていて、インフラは貧弱であり、一人当たり所得は世界一少ない国の一つである。輸出による収入は主にベースメタル(45%、銅とコバルトを含む)、ダイヤモンド(25%)、原油(20%)から得ている。IMF----延長信用便宜(Extended Credit Facility)は2012年末には使い尽くされる----と広義の寄付者コミュニティは経済再建の試みを支持しているが、これは非常に低いペースからである。GDPの成長は2009年に1%であった後、2010~2011年は5~6%と見込まれる。

IN BRIEF

GDP growth 2009
Togo **Poland:** +1.7% (+3.1% yr/yr in Q4); **Slovenia:** -7.8% (-5.5% yr/yr in Q4); **Ukraine:** -15% (-7% yr/yr in Q4).
 Provisional results from the polls on 4 March suggest that President Faure Gnassingbé was re-elected.

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.